

# 「情報処理学会論文誌 プログラミング」の編集について

論文誌プログラミング編集委員会

## 1. 対象分野

プログラミングはコンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な分野であるが、コンピュータがある限り不可欠な技術である。並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて、プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう。

「情報処理学会論文誌 プログラミング」は、プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である。具体例として次のようなテーマがあげられる。

- プログラミング言語の設計, 処理系の実装
- プログラミングの理論, 基本概念
- プログラミング環境, 支援システム
- プログラミング方法論, パラダイム

これらを応用したシステムの開発事例も対象に含まれる。また、上記以外でも、プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる。

## 2. 編集方針

本論文誌は、プログラミング研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある。論文誌への投稿者が用意する研究会発表用の資料が、内容的にそのまま本論文誌への投稿論文となる。

研究会発表をせずに本論文誌に投稿することはできないが、逆に、本論文誌への投稿をともなわない研究会発表は可能である。そのような発表や、論文が不採録となった発表については、アブストラクトが本論文誌に掲載される。

本論文誌に掲載する論文は、通常のオリジナル論文と、サーベイ論文の2種類とする。どちらの種類であるかは、著者自身の指定によって決まる。論文の記述言語は日本語、英語のいずれかとする。論文の長さには制限は設けない。

## 3. 査読基準

基本的に、減点法に陥ることを避け、論文の良い点を積極的に評価するという方針を貫く。具体的には、新規性、有効性などの評価項目のうち、どれか1つの点で特に優れていると認められれば採録する。体裁のみが整った論文より、若干の不備はあっても技術的な貢献の大きい論文を積極的に受け入れる。

このような観点から、たとえば次にあげるような、従来は論文としてまとめることが難しかった内容について論じた論文もできるだけ受け入れる。

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイデアの提案
- 概念の整理, 分類法, 尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

## 4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者、および研究会での発表希望者は、発表会開催日の約2カ月前までに発表申し込みをする。具体的方法は研究会ホームページ (<http://sigpro.ipsj.or.jp/>) を参照していただきたい。申し込みの際には、所定の申し込みフォームに本論文誌への投稿の有無、オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定を明記する。また、アブストラクト(和英両方、和文は600字程度)を提出する。

論文投稿を希望した場合は、研究発表会の約1カ月前までに、別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する。

毎回の研究発表会の直後、編集委員会が開催され、各論文について1名の査読者が決定される。査読報告をもとに、編集委員会は採録、条件付き採録、不採録のいずれかの判定を行い、発表会開催後3週間程度で発表者に採否通知を行う。照会の手続きはないが、条件付き採録の場合は採録のための条件が示される。また、論文改善のための付帯意見が添付される場合がある。この場合は、3週間以内に改良版を作成する。最終的に採録となった論文が、学会の諸手続きや校正を経て掲載される。

英文論文については、2015年1月から Journal of Information Processing (JIP) との連携が始まっており、JIP に正本が掲載され本論文誌にそのプレプリントが掲載される。

本論文誌は、電子図書館(情報学広場:情報処理学会電子図書館)上にオンライン出版され、研究会登録者は発行直後から無料で閲覧できる。また、発行後2年経過した論文誌は、無料で閲覧できる。英文論文が掲載される JIP は、オープンアクセスである。

## 5. 研究発表会

2017年度の発表会の日程は次のとおりである。

- 6月 8～9日 静岡県総合社会福祉会館シズウエル
- 7月 28日 秋田アトリオンビル  
[SWoPP-並列/分散/協調プログラミング言語と処理系]
- 11月 1～2日 法政大学 小金井キャンパス
- 1月 15～16日 高知工科大学 永国寺キャンパス
- 2月 28日～
- 3月 1日 東京工業大学 大岡山キャンパス

### 本号の編集にあたって

2017年度第3回研究発表会  
担当編集委員 堀江倫大, 日高宗一郎  
2017年度第4回研究発表会  
担当編集委員 小出 洋, 鶴川始陽

本号は、2017年度第3回プログラミング研究会（通算116回）の発表の各1ページの概要、および2017年度第4回プログラミング研究会（通算第117回）からの採録論文2件と他の発表の各1ページの概要からなる。

第3回プログラミング研究会は、2017年11月1日から2日にかけて、法政大学小金井キャンパスで開催された。これまでと同様に研究会論文誌への投稿をともなう発表のほかに、論文投稿をともなわない発表を歓迎した。加えて、この回では通常の発表（発表25分、質疑20分）に加え、短い発表（発表20分、質疑10分）も募集した。その結果、7件の通常の発表が行われた。

第4回プログラミング研究会は、2018年1月15日から16日にかけて、高知工科大学永国寺キャンパスで開催された。これまでと同様に研究会論文誌への投稿をともなう発表のほかに、論文投稿をともなわない発表を歓迎した。加えて、この回では通常の発表（発表25分、質疑20分）に加え、短い発表（発表20分、質疑10分）も募集した。その結果、5件の通常の発表と2件の短い発表が行われた。

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は、開催日の昼休みや研究会終了後に編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバで現地にて複数回開催した。ただし、投稿論文の著者と利害関係のあるメンバは、その論文についての議論の間は退席している。委員会会合では先の節に記した対象分野、編集方針および査読基準に従って、各投稿論文の評価できる点について意見が交され、その場で可能な限り査読者の選定を行うようにした。各査読者は、編集委員会での議論をふまえて査読を行った。

最終的に、第4回の研究会で投稿を希望したもののうち

2件の論文（通常論文）が採録となった。その他の発表については1ページのアブストラクトを掲載してある。掲載順序は論文、アブストラクトのそれぞれについて発表順に従うこととした。

さらに、本号でも、英語による研究公開を促進することを目的として、日本語採録論文の英語化という試みが実施された。これは採録論文著者の希望に基づいて、著者が採録された論文を英語化するものである。なお、採録時の内容を変えないように英語化することと、英文校正を通すことが条件となる。また、採録時の論文の内容と英語化後の論文の内容とに差異がないことは、英語化担当編集委員によって確認され、編集委員会によって承認される。本号では2件の日本語論文が採録されたが、英語化の希望はなかった。

最後に、研究会開催および論文誌編集にさまざまなご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい。